

【協議事項（２）】

（２）令和６年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

１．主旨

ふれあいバス印旛・本埜支所ルートにつきましては、交通不便地域である荒野・竜腹寺地区を経由することにより、国の地域公共交通確保維持改善事業費補助金の交付（令和５年度２，２０３，０００円）を受けて運行しています。

この度令和６年度の事業期間（令和５年１０月１日～令和６年９月３０日）が終了となりましたので、その事業評価について地域公共交通会議の協議を経て令和７年１月末日までに、関東運輸局へ提出が求められていることから、本会議においてご審査いただくものです。

２．配布資料

- 資料１ 令和６年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価
- 資料２ 事業実施と地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画との関連について
- 資料３ 令和６年度印西市地域公共交通活性化協議会（千葉県印西市）
- 資料４ 印旛・本埜支所ルート実績データ
- 資料５ 印西バスマップ

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和 年 月 日

協議会名： 印西市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）
ちばレインボーバス株式会社	コミュニティバス（ふれあいバス） 印旛・本埜支所ルート 系統：印旛支所～竜腹寺～本埜支所～印西牧の原駅～本埜支所～竜腹寺～印旛支所（31.8km） 運行回数：7便／日 運賃：大人（中学生以上）100円 ※小学生・乳幼児・障害者手帳保持者及び介助者1人まで無料	・70歳以上の方を対象にふれあいバス運行区間を無料乗車できるフレイカを継続した。 ・運行遅延の緩和対策として時刻改正を行い、利用者の利便性向上を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B ●利用者数 ①目標：13人／便 ②実績：9.8人／便 【分析】 ・前年度比 R5:9.2人／便 7%増 R1:10.4人／便 6%減 ※新型コロナウイルス感染症拡大前 ・荒野、竜腹寺地区の利用者 R5:593人 R6:659人 11%増 ・停留所「本埜支所」の利用者 ※R1設置 R5:2,388人 R6:3,490人 46%増 1便あたりの利用者数は目標値に届かなかったものの、荒野、竜腹寺地区やバス待ち環境を整備した本埜支所の利用者が増えている。引き続き目標値を達成できるよう運行事業者などと情報共有し、利便性の向上に努める。	ふれあいバス運行実態について検証を継続するとともに、交通不便地域への対応と併せ、必要に応じ、運行ルート及び運行ダイヤの見直しを行い、さらなる利便性の向上を図る。

事業実施と地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名：	印西市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	印西市地域公共交通計画の基本的な方針：バス路線においては、民間路線バスとコミュニティバス「ふれあいバス」の路線に重複区間が多いこと、運賃が不均一なこと、バス運行の速達性や利便性を確保していくことなど、幅広い課題を抱えている状況である。これらの課題を解決し、地域公共交通の効率化と充実を図り、市民の利便性確保に向けた市域全体の公共交通網の見直しを検討していくことが必要であるため、「誰もが公共交通ネットワークを利用して、便利で気軽に移動ができるまち」を目的に、効率的な公共交通網の形成を目標とし、地域公共交通計画の策定を行った。 上記を踏まえたフィーダー系統維持の目的・必要性：「竜腹寺地区・荒野地区」では、高齢化も進展し、また商業施設や医療施設がなく、日常生活における買い物・通院等、高齢者の生活を支える生活交通等の運行を行う必要がある。また、本埜地区及び印旛地区では「ふれあいバス」が運行されておらず、さらに本埜地区では路線バスが２系統運行されているものの、バス停については数が少なく、地区内全域をカバーする交通機関が存在しない状況である。 こうした中で、市内には半径１キロメートル以内にバス停留所、鉄軌道駅、港湾及び空港が存在しない、いわゆる「交通不便地域」が点在しており、この計画では、地方運輸局長から交通不便地域の指定を受けた「竜腹寺地区・荒野地区」の住民を主な対象者とした移動手段を確保することが必要である。 このため、地域公共交通確保維持事業により、ふれあいバス印旛・本埜支所ルートを確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。

令和6年度 印西市地域公共交通活性化協議会（千葉県印西市） （地域内フィーダー系統確保維持事業）

協議事項（3）資料3（R7.1.24）

地域の公共交通等の現況・課題

印西市の公共交通は、市の中央部を北総線・成田スカイアクセスが、市の北部をＪＲ成田線が、それぞれ東西に走り、東京都心や羽田空港、成田空港などに連絡し、広域的なアクセス機能を果たしている。また、バス路線は、民間路線バス13路線、コミュニティバス（ふれあいバス）6路線が運行し、市内公共交通網が形成されている。このような中、市内には「交通不便地域」が点在しており、その解消に向け、民間路線バス（補助路線）の運行及びタクシー利用助成事業による実証実験を行っている。当該補助対象路線を運行している、荒野・竜腹寺地区については交通不便地域であり、ふれあいバス印旛・本埜支所ルートとの運行により、その解消を図っているところである。

交通計画の基本的な方針／定性的な目標

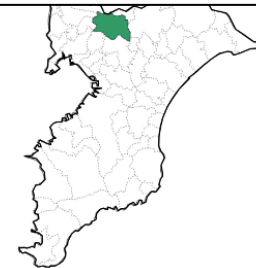
バス交通においては、民間路線バスとコミュニティバス（ふれあいバス）の路線に重複区間が多いこと、運賃が不均一なこと、バス運行の速達性や利便性を確保していくことなど、様々な課題を抱えている状況である。これらの課題を解決し、地域公共交通の効率化と充実を図り、市民の利便性確保に向けた市域全体の公共交通網の見直しを検討していくことが必要であるため、「誰もが公共交通ネットワークを利用して、便利で気軽に移動ができるまち」を目的に、効率的な公共交通網の形成を目標とし、地域公共交通計画の策定を行った。

目標を達成するために行う事業の今年度実施状況

印西市においては、鉄道やバスの利用が不便な交通不便地域となっている地域は、人口密度が低いものの高齢者割合が高い傾向にあり、今後も、交通不便地域の移動手段を確保するための公共交通が必要である。今年度においては、公共交通不便地域の解消のため、民間路線バス（補助路線）の運行、コミュニティバス（ふれあいバス）運行及びタクシー利用助成事業による実証実験を実施している。

アピールポイント

交通不便地域（荒野・竜腹寺・本埜支所方面）と需要が見込める地域（若萩・舞姫、牧の原）を経由するふれあいバス印旛・本埜支所ルートを実行した。これにより、印旛支所や日本医科大学千葉北総病院が立地する印旛日本医大駅エリアと、住宅が集積し大規模な商業施設が立地する印西牧の原駅周辺エリアを結び、荒野・竜腹寺地区や本埜支所を経由することにより、公共交通不便地域の解消を図った。



面積	123.8 km ²
人口（R6.4.1時点）	111,109人
15歳未満	18,490人
65歳以上	26,949人
高齢化率	24.3%

交通計画の計画期間

令和3年4月～令和8年3月

協議会開催状況

（令和6事業年度に係るもの）

・第1回（令和6年6月14日）
R6事業年度フィーダー確保維持計画を協議

・第2回（令和7年1月24日）
事業評価について

印旛・本埜支所ルート利用者実績

協議事項（２）資料４（R7.1.24）

①印旛・本埜支所ルート利用者実績

R 6 年度	利用者数	1 日あたり	1 便あたり
R5.10	2,041	65.84	9.4
R5.11	2,044	68.13	9.7
R5.12	1,990	64.19	9.2
R6.1	1,787	57.65	8.2
R6.2	1,944	67.03	9.6
R6.3	1,917	61.84	8.8
R6.4	2,130	71.00	10.1
R6.5	2,392	77.16	11.0
R6.6	2,422	80.73	11.5
R6.7	2,315	74.68	10.7
R6.8	1,922	62.00	8.9
R6.9	2,278	75.93	10.8
計	25,182	68.85	9.8

①9.8人/1便

②荒野、竜腹寺東、竜腹寺西の乗降者数

R 6 年度	荒野	竜腹寺東	竜腹寺西	月計
R5.10	23	24	20	67
R5.11	26	24	8	58
R5.12	20	33	7	60
R6.1	17	25	9	51
R6.2	25	37	10	72
R6.3	15	30	9	54
R6.4	19	22	8	49
R6.5	17	27	15	59
R6.6	29	17	14	60
R6.7	8	20	17	45
R6.8	11	18	14	43
R6.9	19	18	4	41
計	229	295	135	659

利用者数の前年度比：659人(R6)÷593人(R5)=1.11

②11%増

R 5 年度	荒野	竜腹寺東	竜腹寺西	月計
R4.10	10	24	6	40
R4.11	19	29	10	58
R4.12	9	20	15	44
R5.1	7	13	15	35
R5.2	8	21	9	38
R5.3	21	32	7	60
R5.4	11	22	7	40
R5.5	9	30	12	51
R5.6	6	22	8	36
R5.7	24	20	15	59
R5.8	28	20	10	58
R5.9	37	27	10	74
計	189	280	124	593

③本埜支所の乗降者数

R 6 年度	本埜支所
R5.10	188
R5.11	250
R5.12	181
R6.1	201
R6.2	246
R6.3	190
R6.4	239
R6.5	528
R6.6	358
R6.7	386
R6.8	196
R6.9	527
計	3,490

R 5 年度	本埜支所
R4.10	237
R4.11	246
R4.12	192
R5.1	200
R5.2	233
R5.3	194
R5.4	164
R5.5	188
R5.6	164
R5.7	174
R5.8	188
R5.9	208
計	2,388

利用者数の前年度比：3,490人(R6)÷2,388人(R5)=1.46

③46%増

